

“United Nations Documents Index”

の創刊とその発展

相 島 宏

まえがき

“United Nations Documents Index” (以下、UNDI という) は、国際連合 (以下、国連という) およびその専門機関のあらゆる刊行物を検索するうえで不可欠の索引誌である。UNDIは周到な準備期間を経て、1950年2月に創刊され、1973年まで継続して刊行された。この間、1963年の1月号から専門機関の刊行物を収録範囲から除外するという後退があった。国連図書館では1966年から業務の幾つかの面で機械化の研究を始めた。1970年に創刊された“UNDEX: United Nations Documents Index” (以下、UNDEX という) は1974年からUNDIに完全にとって替ることになるが、これはまさに機械化の産物である。

ここでは、UNDIが発刊される経緯とその歴史的発展に関して、国内では未だ触れられていない模様なので、若干記してみた。そして、至らぬ点については諸賢のご教示をいただければ幸いである。

なお、拙稿は、国内では一次資料の不足という制約があって、多くを“Index and bibliographic services” Dale, D.C. The United Nations Library; Its origin and development. Chicago, American Library Association, 1970 pp. 134-145に頼らざる

を得なかった。当書の引用を快諾された、デール女史およびアメリカ図書館協会に記して感謝の意を表したい。

I

1945年4月25日、サンフランシスコに於て国際連合憲章を作成するために、国際機関創設のための連合国会議 (The United Nations Conference on International Organization) が召集された。このため、アメリカ議会図書館 (The Library of Congress) によって、国連図書館の前身となる、会議図書館 (The Conference Library) が設立された。この図書館は、1945年4月23日^{注1}から同6月26日^{注2}まで、65日間開かれたのみである。主な仕事としては、この会議の文書を収集し、対照することと、参考調査業務があった。

国連図書館のもう一つの前身は、1945年9月17日にオープンした、ロンドンの準備委員会図書館 (The Preparatory Commission Library) である。国連総合第一会期の調整と恒久的な事務局設立のための準備委員会が設立したもので、組織上は仮に文書課 (Documents Section) に所属していた。ここでの業務もサンフランシスコの会議図書館のそれを発展・継承したもので、少しばかりの参考図書の収集、各国の代表

部や事務局員に対するレファレンス・サービス、および図書館間貸出による利用者へのサービスであった。しかし、ここで画期的なことは、図書館の創立とともに、文書局 (Bureau of Documents) の一係として各国の代表部や事務局、それに報道機関に対して、国連の文書に関する情報を提供するため、文書索引係 (Documents Index Unit) ^{注3} が設けられたことである。

ロンドンの準備委員会は、レファレンス・サービスは公報部 (Department of Public Information) の仕事、一方、図書館は会議および一般サービス部 (Department of Conference and General Services) に置くべきであると規定した。このためこれらの二つの部の間で何かと衝突を生む結果になり、この状態は図書館が公報部に転属される1948年まで続くことになる。

1946年3月、ハンター・カレッジ (Hunter College) に国連図書館が創設された時、文書索引係も設けられ、会議および一般サービス部文書・販売課 (Documents and Sales Division) の一係となった。この係は、公報部の図書館サービス課 (Division of Library Services) に移る1948年1月1日まで文書・販売課に属した。

II

国連図書館が創設された当時は、当然のことながら、国連およびその専門機関で刊行した出版物の索引はそれぞれの機関が作成していた。このため、すべての国際機関の刊行物をカバーする索引の作成が望まれていた。このような状況の中で、国連或は民間組織でも国際ドキュメンテーションの問題に関して、頻りに会議や会合がもたれた。1947年3月、国際機関によって刊行さ

れる資料の分類に関する会議が、世界平和財団 (World Peace Foundation) によって召集され、そこで2つの主要な方向が示された。1つは主要な国際機関の、活版もしくは製版による印刷の最も重要な文書の発行形式、もう1つは謄写版印刷による、予備のない比較的短命な資料の発行形式である。同年6月19日の第2回目の会合では、前回の会議で約束された4つの委員会が提出したリポートを討議した。これらのリポートに共通して言えることは、どの図書館も国際的文書の適当な索引と国際関係に関する文書の書誌サービスを要求しているということである。結局この時の会合では2つの特別な勧告を採択した。そのうちの1つは国連の刊行物に関するもので、国連およびその専門機関の刊行資料の公式索引の代りに、少くとも部分的案内として、これらの機関によって活版或は写真製版で印刷された刊行資料をカバーする、季刊の選択的書誌を刊行すべきであるというものだった。この事業は、カーネギー財団、カーネギー・コーポレーション (Carnegie Corporation) およびロックフェラー財団 (Rockefeller Foundation) が請負って始めた。書誌作成の指導は、アメリカ図書館界の大家や研究機関の代表者である、P. C. ジェサップ (Jessup), V. W. クラップ (Clapp), W. R. シャープ (Sharp), R. サヴォード (Saword) および H. N. M. ウィントン (Winton) で構成する諮問委員会があたった。この成果は1947年11月創刊の "Documents of International Organizations: A selected bibliography" である。この書誌は1950年9月まで刊行され、1950年1月に、国連図書館によって UNDI が刊行されたので、これにとって替られ、廃刊となった。

一方、国連の公報部でも1948年からUNDIの前身とも言うべき索引を刊行した。“Index Notes Series” No. 1-46で、毎号一つの主題または一つの主要機関（または補助機関）の刊行物を過去に溯って包括記載しているチェック・リストである。他に資料表示記号のリスト等もある。謄写印刷版で不定期に刊行された。当誌もUNDIの刊行や1953年から“Index to Proceedings of the General Assembly” sessional. (ST/LIB/SER.B/A.1-)や“Index to Proceedings of the Economic and Social Council” sessional. (ST/LIB/SER.B/E.5-)が刊行されることになったので、1952年に廃刊になった。

III

1948年春、情報専門家で構成される諮問委員会の会合が国連で開かれ、そこですべての国連刊行物をカバーする1つの索引誌を編纂すべきであるとの勧告が出された。同年秋には、5月1日に公報部図書館サービス課の課長になったばかりのC. H. マイルム(Milam)が図書館の専門家からなる国際諮問委員会を召集し、未だ確立していなかった図書館政策と組織について討議を依頼した。この諮問委員会の報告書は、国連事務総長トリグヴィ・リー(Trygve Lie)によって総会の第5委員会(行政および予算関係(Administrative and Budgetary))に提出された。この報告書は、第1部：図書館政策と第2部：図書館の組織の2部から成り、その第1部で文書索引業務を次のように定めている。「本部図書館は、国連の文書およびその刊行物の索引をとる責務がある。その業務計画として、主として(国連)事務局の要求に応えるため、(これらの資料の)迅速な索引化、国連およびその専

門機関の索引をとったすべての重要文書、刊行物リストの定期的な刊行、国連文書を機関および会期によって索引をとった、最終的なチェック・リストの刊行、公式記録および重要文書の索引のページ付け、さらに、特別な要求に応じて特別なリストや索引を随時提供することが含まれている。図書館は、国連およびその専門機関の文書や刊行物に関して完璧なレファレンス・サービスを提供し、国連およびその専門機関が(資料の)索引化とチェック・リスト化を改良且つ標準化するのを促進させねばならない」。事務総長が提出したこの報告書は、UNDI誕生の政策的胎動として位置づけることができる。

国際諮問委員会はさらに突込んで文書索引化の問題に取組んだ。そこでのワーキング・ペーパーの1つは、「国連の文書および(事務局内の)部の刊行物の分類と利用」となってあらわれた。このワーキング・ペーパーは、文書索引係の主要な機能を次のように記している。

- ① 国連本部で行われた会期中の文書や演説に関する、各国の代表部や事務局からの問合せに答える。
- ② 国連文書の索引およびチェック・リストを刊行する。
- ③ 文書一連記号の作成に関して文書局に助言する。

また、このワーキング・ペーパーの中には最初の索引が提案されていた。それは、既に刊行されている国連創設以来2年間のすべての文書のチェック・リストで、諸主要機関、委員会、会議を一つづつ幾つかに分けて刊行し、年刊の補遺によって最新なものとなるよう維持するというものである。先の国際諮問委員会は、結局次のような勧告を行った。

- ① “United Nations Check List”の刊行計画を承認し、できるだけ早く現在刊行されている資料に追い付き、あとは資料と平行してチェック・リストが刊行されるよう保持することを期待する。
- ② 簡単な週刊の件名索引を刊行せよ。
- ③ すべての国連機関の文書および刊行物の総合的なチェック・リストを、できるだけ早く刊行することを渴望する。

また、これよりやや後の11月21、22日の両日、カーネギー平和財団の主催で国連およびその専門機関のドキュメンテーションに関する会議がバリで召集された。この会議には、図書館や研究機関の代表者が11ヶ国から64名集まった。そこでは以下のような決議が採択された。

- ① 国連は、すべての書誌的ツールのフランス語版を刊行すべきである。
- ② 本印刷或は謄写印刷の何れの刊行物についても、完全な書誌的情報を付与すべきである。
- ③ 索引は、件名、関係代表部、関係者および関係機関からのアクセスを提供せねばならない。
- ④ 提案された索引は速やかに作成されねばならない。
- ⑤ 適用された文書分類大系は、細部にわたって刊行されねばならない。
- ⑥ すべての資料は、件名による分類をしなければならない。
- ⑦ 文書を立案、印刷および配付する一つのセンターがなければならない。

これらの決議を受けて、文書局は図書館に対し、国連およびその専門機関のすべての刊行資料をカバーする試験的な件名索引を作成するよう勧告し、図書館はこれに

え、“Weekly Index to Documents and Publications”を作った。この件名索引は、これを送られた国連本部事務局職員や外部の図書館員にも満足して受け入れられた。そのうえ、月刊および年刊の累積版を刊行してはどうかと云った提言もあった。

一方、図書館の要求によって、調査サービス係 (Inspection Service of the U.N.) の手で刊行すべき索引に関して細かい調査が行われていた。この調査の予備報告書は、1949年3月、調査サービス係のK. P. R. メノン (Menon) によって図書館に提出された。この報告書は、文書索引係の計画を批評・研究するために、国連図書館長 C. H. マイラム (Milam) によって委嘱された2人の外部の専門家が充分検討したものに基づいている。この報告書に沿って、図書館の職員と調査サービス係の代表が立案したプランに対し、アメリカ政府刊行物文書管理官補の R. B. イースティン (Eastin) は、技術的に妥当で、極めて実際的であると評価した。そして、参考調査に応えることができ、件名索引と刊行資料のチェック・リストを発行するためのデータを提供できるなら、適当なカード索引化計画が望ましいとした。そしてイースティンは彼のレポートで、文書索引化計画の成否は次のような管理上の決定がなされるか否かにかかっていると表明した。

- ① 索引をつくるためのスタッフが彼らの仕事に専念できる。
- ② 請負か或は特別な職員によって残務を清算させる規定をもうけて、現在刊行されている資料の索引化を開始する。
- ③ 文書索引係とは別に、個々の文書の索引のページ付けを編成すること。最も好ましいのは、国連のいろいろ

な刊行物の個々の編者にその刊行物の索引のページ付けに対する責任を負わせることである。

- ④ 基本索引カードの作成に従事していない職員によるレファレンス・サービスの提供。
- ⑤ 文書索引化のための職員が不十分な時、どの計画を続行し、どれを打切るかを判断できるように、文書索引化に従事している係の運営の優先権を確立すること。
- ⑥ 適切な財源の用意。

このイースティンの報告書に、ニューヨーク市立単科大学の図書館長で、アメリカ図書館協会の公共出版物委員会の議長でもある、J. K. ウィルコックス (Wilcox) は第三者への書翰の中で全く同意見であると述べている。

IV

マイラムは文書索引化の問題を討議するため、1949年4月27日に常設諮問図書館委員会 (Permanent Advisory Library Committee) を召集した。ここでは、先ず刊行頻度が議論され、その結果、月刊が適当であり、そしてもし必要ならば、後ほどさらに頻繁に刊行したらよいということになった。収録範囲は、記事資料、ポスター、ラジオ原稿、スライド教材用のフィルム、“United Nations Bulletin” のリプリントおよび事務局の内部文書を除いた、国連とその専門機関の文書、および刊行物をできうる限り包括することになった。記載の形式と配列は、アメリカ連邦政府の刊行物目録である、“United States Government Publications Monthly Catalog” に倣い、^{注9}先ず発行母体順に、その中は資料の表示記号順に配列し、各々の資料に一連の登録番

号を付す。索引は、著者および年別に累積さるべく月刊の件名索引を予定した。

マイラムの召集した常設諮問図書館委員会が開かれてから約3週間後の5月19日、メノンの最終レポートが発表された。このレポートは、文書索引係の機能を分離しないという点で、前に発表したイースティンのレポートとは内容を異にしていた。ここでは文書索引係の主要な機能を3つの任務の結びつきであると記している。3つの機能とは、即ち次のとおりである。

- ① 国連刊行物の利用者が、必要とする資料の所在を見つけるために手助けとなるチェック・リストおよび索引を刊行すること。
- ② 国連刊行物に関するレファレンス・サービスを提供すること。
- ③ 財源と人員が許す限りにおいて、事務局の要請による他の特別な索引を作成し、国連の刊行物と公式記録の索引にページ付けをする。

V

このように、約3年間、国際会議、諮問委員会および個人のレポートというかたちで国連資料索引化のための研究がなされ、その成果は、1950年2月15日、“United Nations Documents Index; United Nations and Specialized Agencies Documents and Publications. vol. 1, no. 1: Jan. 1950” となってあらわれた。創刊号には、文書索引係が1950年1月中に収集した国連およびその専門機関の刊行物約780タイトルを収録していた。したがって、この中には1949年の刊行物もたくさん含まれている。配列は、先ず、総会、安全保障理事会、経済社会理事会、信託統治理事会、事務局、国際司法裁判所の順で、それぞれの

機関は資料標示記号にしたがって、さらに、専門機関については、国際復興開発銀行 (International Bank for Reconstruction and Development)、国連食糧農業機関 (Food and Agriculture Organization of the United Nations)、国際通貨基金 (International Monetary Fund)、国際民間航空機関 (International Civil Aviation Organization)、国際労働機関 (International Labour Organization)、国際難民機構 (International Refugee Organization)、国際電気通信連合 (International Telecommunication Union)、国連教育科学文化機関 (United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization)、万国郵便連合 (Universal Postal Union)、世界保健機関 (World Health Organization) の順に記載している。これは、マイラムの召集した常設諮問図書館委員会の答申を踏んだものであった。各号には、序論と使用した略語の一覧表が含まれている。刊行頻度は月刊で、索引は年刊である。その索引は原則的には件名で、幾つかについては書名でとられている。資料に対する参照はページ数ではなく、1つ1つの資料に与えられている登録番号によっている。

UNDI に対する評価はまずまずで、特別によかったということではなかった。

なお、UNDI がカバーする以前の国連刊行資料については、1950年の時点で、既に膨大な量に達していたが、徐々に “Check List Series” を刊行することによってその不備を補った。

UNDI が刊行された翌年の1951年、国連図書館は文書索引係が UNDI の編集および刊行に専念できるように、同係からレファレンス業務を分離して、閲覧者奉仕係 (Service to Readers Unit) に付け、文書

索引係は整理課 (Processing Section) に移った。この組織の再編は、前述のイースティンの報告書にそったもので、メノンの報告書には背反している。

ところで、UNDI には国連の専門機関の刊行物も収録されていたが、これは、1948年秋の図書館の専門家からなる国際諮問委員会の勧告を受け入れたかたちになっているが、個々の専門機関による協力的な取決めが決定的な要因になっていることを見逃すわけにはいかない。しかし、この協力関係も長続きはせず、1963年の1月版から専門機関の刊行物が UNDI から消えた。その主な理由として次のような点が挙げられる。

- ① 多くの専門機関が自らの機関で索引を編集・刊行し、且つ、大方の機関が販売目録を刊行していた。
- ② 一部の専門機関は、資金或は責任の一端を担おうという意識もなく、UNDI をつくることになっていた。
- ③ 索引をとる資料数が急激に増加したにも拘らず、そのためのスタッフはあまり増えていない。
- ④ 国連加盟国が10年間で2倍になり、索引の記入事項が著しく増加した。

UNDI の収録範囲の縮小という事態を踏まえて、国連の専門機関の間に資料索引化に関する作業部会が設立された。この部会の仕事は、

- ① 現在の資料索引化業務の見直し
- ② 国連、その専門機関および国際原子力機関 (International Atomic Energy Agency) から刊行される出版物の組織化、索引化、保存および配付のための共通の基準を作成し、発展させること
- ③ 現行もしくは計画中の、資料を索引

化し、検索するシステム間の調和を達成し、維持するための手段と方法を考究すること

- ④ 個々の専門機関や他の利用者の様々な要望や経験を考慮して、索引化システムの統一の問題について取組む、統合に関する諮問委員会 (Advisory Committee on Coordination) への勧告をとりまとめること

である。この作業部会で充分検討した結果、専門機関間委員会としては、参加専門機関に於ける索引化システムの統一の方法は、達成、且つ維持され、そればかりか、UNDIの不備をも補い得るであろうと確信した。

しかしながら、すべての国連機関の刊行物をカバーする、現時の、そして包括的な書誌的記録となる単独の索引誌に対する要望は依然として残った。さらに、国連機関のみならず、他の国際機関 (例えば、欧州共同体 (European Community) とか経済協力開発機構 (Organization for Economic Cooperation and Development)) の刊行物をもカバーする索引誌へと理想は高くなったので、討議は新設された国際図書館協会 (Association of International Libraries) に持込まれた。結局、この構想は国連図書館の限られた人員が二者択一を迫る結果になった。即ち、索引をとる資料の範囲を拡張すべきか、それとも限定した資料をできるだけ濃密に索引をとるべきかという。選択の結果は後者であった。

VI

1966年の夏、慢性化した人員不足と増大する資料に、ダグ・ハマースキョルド図書館^{注15} (Dag Hammarskjöld Library) は業務の幾つかの面で機械化を図ろうと研究を始め

た。それと同時に、各国の代表部、使節団および国連の事務局が必要としている文献活動を正確に把握するため、それらの442人のメンバーにアンケートが送られた。その中には、利用している文献活動の形態や種類に関するもの他に、ダグ・ハマースキョルド図書館が提供する索引および書誌の有益性、望まれる文献活動の形式の項目が含まれていた。回答率はちょうど50%であったが、同図書館は、その利用と必要性の傾向を十分に示唆していると受けとめた。この大まかな統計は、増大する索引および書誌的サービスに対する圧倒的要求、英語以外の言語による索引刊行の必要性、索引は遅れることなく刊行せよとの要求、そして索引をとる資料の収録範囲を拡大せよとの要求といった、これまで推測されるのみであった幾つかの要望を動かしえぬ事実に変えた。

1966年に始まった業務機械化計画は、1969年、国連ドキュメンテーション情報システム (UNDIS: United Nations Documentation Information System) (以下、UNDIS として結実^{注16}した。これは、国連文書から抜き出した情報と国連に関するいろいろな情報を入力しておき、後に、文書の検索、特定なデータの蓄積と検索、英・仏・露・スペイン語の文書索引の編纂、およびマイクロ形式の文書の保存と普及に活用しようというものであった。コンピュータに基づくUNDISには以下の資料がファイルされていた。総会、経済社会・安全保障・信託統治の各理事会、およびこれらに付属する多くの機関に提出された文書や報告書、これらの機関の決議および議事速記録、市販資料、1972年以降国連が刊行した雑誌の記事、論文。ただし、国連の条約集 (Treaty series. Vol. 1(1946)-) および

地域経済委員会等発行の謄写刷の文書は除外されている。

ファイルされた資料には次のような情報を記録した。その資料に付与されているシリーズ名、販売記号（セールス・ナンバー）、マイクロフィッシュの番号等の参照、および著者、書名、分類カテゴリー等の記述上の事項等である。

この UNDIS の産物の一つが、コンピュータによって編纂された、“UNDEX: United Nations Documents Index”である。1970年には、Series A; Subject Index と同 B; Country Index しか刊行されなかったが、1973年に、同 C; List of Documents Issued が刊行され、全部出揃った。この為、UNDI はこの UNDEX にとって替られ、廃刊になった。そして UNDEX は英語版のみならず、独・仏・露・スペイン語版も刊行されるようになった。これは、加盟国が増加したのに伴って利用者が増え、いろいろな言語からもアクセスできるように、また、拡大する情報の中から、特定の資料を検索できるような、専門のツールをという要望に応えたものである。^{注17}

ここで、UNDEX. Ser. A, B, C について略述しておこう。Ser. A は件名索引で、国連によって刊行された文書や刊行物を、件名によって検索可能にしたもの。記載事項は、件名、資料のかたち、個人又は共著者名、資料の正および副記号、そして前後参照である。同 B は国名索引で、国連加盟国が国連に何らかのかたちで関与したならば、その情報を、また、そのような関与を記録した文書に参照を付したものである。記載事項は、国名、討論・投票・メンバーであるといった行為の形式、関与した問題について簡単に記述した発表題目、それに資料の記号である。同 C は刊行リストで、

限定された資料や内部文書を除いて、国連で刊行され、ダグ・ハマースホルド図書館に受入れられたすべての公式文書や刊行物を記録し、書誌の事項を記載したものである。配列は UNDI と同じく、先ず刊行した組織に分け、さらにその中を資料のアルファベット順にしている。

VII

ダグ・ハマースホルド図書館は、国連組織内部の利用者同様外部の者にも書誌の情報サービスを向上させ、且つ拡大するために、新しく国連書誌情報システム (UNBIS: United Nations Bibliographic Informations System) (以下、UNBIS という) の確立をめざした。^{注18} この新しいシステムは 1976年に試験段階に入り、2年後の1978年7月、実施に入った。そのねらいは次のとおりである。

- いろいろなタイプの資料に（国連が刊行した資料同様、国連図書館が受入れた他の資料にも）より多くの書誌的コントロールを施す
- 国連組織内部の利用者のためのオンライン検索
- 国際書誌基準 (International Bibliographic Standards) の履行
- 情報蓄積のための入力能力を拡張し、情報のアクセスを国連図書館のみならず、事務局の各部局、地域経済委員会の図書館等にも拡げる
- 国連組織内部の利用者のために、件名書誌、目録等を作成する
- 国連機構に所属する、幾つかの図書館が所蔵する定期刊行物のユニオン・リストを作成する
- 国連文書および刊行物に対する、一つの包括的な索引を作成する

この最後に記したことは、1979年6月に刊行された、“UNDOC: Current Index (United Nations Documents Index)” (以下、UNDOCという) Vol. 1, Nos. 1-2 (Jan.-Feb. 1979) となって具現した。UNDOCは年10回刊行され、文書および市販資料のチェック・リスト、公式記録、再刊された文書のリスト、索引をとった文書および市販資料の言語表、件名・著者および書名索引から成っている。前のUNDEXと比較すると、国別索引の機能が失われ、基本的には機械編纂される前の索引誌であったUNDIに戻ったことになる。このUNDOCに対する評価は暫く待たねばならない。

あとがき

UNDIが発刊されるまでの経緯から、コンピュータの導入によるUNDEX: Ser. A, B, Cの誕生、それと同時のUNDIの廃刊、そしてUNBISによるUNDOCの発刊に至るまで、一連の主だった展開を記してみた。一応の経緯については大方ご理解いただけたと思う。しかしながら、疑問、不明な点もたくさん残っている。例えば、UNDIの誕生には常にアメリカの図書館界が主導権を握っていたが、これは国連がニューヨークに存在していたことのみ因るのか。UNDIがUNDEX: Ser. A, B, Cに生れ変わる際、Ser. A, CはUNDIの内容を分離踏襲したものであるが、Ser. B; Country Indexは全く新しい内容である。このSer. BはUNDEXの次のUNDOCでは消えている。これらはどういう理由によるものなのか、等々。これらの問題については後考を俟ちたい。

注1 会議図書館が設立される以前は、アメリカ国務省の図書館が国連に対するサービ

スを行なった。(Milam, C. H. The United Nations Library. The Library Quarterly vol. 23 no 4: Oct. 1953 p. 267)

注2 会議図書館の設立には、国連公報室(United Nations Information Office) ニューヨーク支部の援助があった。(Ibid. p. 267)

なお、蔵書はアメリカ議会図書館、アメリカ西海岸の7つの図書館、アメリカ陸軍(US Army)、カーネギー基金(Carnegie Endowment) および民間の出版社が提供した。職員は、アメリカ議会図書館、アメリカ国務省(US Department of State)、外交問題評議会(Council of Foreign Relations) およびアメリカ海軍(US Navy) から採用された。(Clapp, V.W. The United Nations Library, 1941-1961. Libri. vol. 12 no. 2: 1962 p. 111)

注3 Milam, C.H. op. cit. p. 277

注4 総会、安全保障理事会、経済社会理事会、信託統治理事会、国際司法裁判所および事務局の国連主要機関を指している。

注5 石川光二「国際連合および専門機関刊行資料の利用法」(I)『びぶろず』21巻5号: 1970年5月 p. 16

注6 国連事務総長は、第3回総会第5委員会、第4回総会に図書館政策と組織について特別な報告書を提出するよう求められた。(Official Records of the 3rd session of the General Assembly, Part I, 5th Committee. p. 402)

注7 U.N. Documents. A/C. 5/298 p. 3 (21 Sept. 1949)

注8 イースティンとニューヨーク市立単科大学図書館長J.K. ウィルコックス(Wilcox)は、国連図書館のコンサルタントとして招かれていた。

注9 現在の誌名は、“Monthly Catalog of United States Government Publications”である。

注10 UNDIについての誌評としては、何れも簡単であるが、次のようなものがある。

○ Merritt, L.C. Review of United Nations Documents Index. Library Quarterly. no. 21: Jan. 1951 p. 51

- Childs, J.B. Review of United Nations Documents Index. Library of Congress Information Bulletin. no.9 (1950): 27 Feb. 1950 p. 11-12
- ibid. no. 10(1951): 9 July 1951 p. 3
- 注 11 1948年に、国連図書館が国連刊行物の索引化業務を受け継いだ時、未索引化資料は既に約27,000部あった。(Clapp, V.W. op. cit. p. 116)
- 注 12 Check List of United Nations Documents.
- Part 2: Security Council, 1946-1949. 1953 (ST/LIB/SER. F/-) Sales No.: 1953. I.3
- Part 3: Atomic Energy Commission, 1946-1952. 1953 Sales No.: 1953. I.16
- Part 4: Trusteeship Council. No. 1-3, 1947-1949. 1949-51 Sales No.: 1949. I. 2, 5 1951. I. 17
- Part 5: Economic and Social Council. No. 1-3, 1946-1949. 1949-1952 Sales No.: 1949. I. 4, 1951. I. 27, 1952. I. 4
- Part 6A: Economic and Employment Commission, 1947-1949. 1952 Sales No.: 1952. I. 10
- Part 6B: Transport and Communications Commission, 1946-1949. 1951 Sales No.: 1951. I. 18
- Part 6C: Statistical Commission, 1947-1949. 1951 Sales No.: 1951. I. 19
- Part 6D: Commission on Human Rights, 1947-1949. 1952 Sales No.: 1952. I. 6
- Part 6E: Social Commission, 1946-1949. 1951 Sales No.: 1951. I. 20
- Part 6F: Commission on the Status of Women, 1947-1949. 1951 Sales No.: 1951. I. 21
- Part 6H: Fiscal Commission. No. 1, 2. 1949, 1951 Sales No.: 1949. I. 6, 1951. I. 22
- Part 6J: Population Commission, 1947-1949. 1951 Sales No.: 1951. I.

Part 7B: Economic Commission for Asia and the Far East, 1947-1949. 1951 Sales No.: 1951. I. 26

Part 7C: Economic Commission for Latin America, 1948-1949. 1951 Sales No.: 1951. I. 28

Part 8: United Nations International Children's Emergency Fund and United Nations Appeal for Children, 1946-1949. 1953 Sales No.: 1953. I. 5

なお、Part 1: General Assembly, Part 6G: Commission on Narcotic Drugs, Part 7A: Economic Commission for Europe, Part 9: Secretariat Publications は未刊である。(Hajnal, P.I. Guide to United Nations Organization, Documentation & Publishing, -for students, researchers, librarians. Oceana Publications, Inc., New York, 1978. 300p.)

注 13 整理課は受入係 (Acquisition Unit), 目録係 (Catalogue Unit) それに文書索引係で構成することになった。

注 14 例えば、
UNESCO

○ General Catalogue of Unesco publications and Unesco sponsored publications, 1946-1959. UNESCO, Paris, 1963 217p.

WHO

○ Publications of the World Health Organization, 1947-1957; A bibliography. WHO, Geneva, 1958 128p.

○ —, 1958-1962; A bibliography. WHO, Geneva, 1964 125p.

○ Catalogue of World Health Organization Publications, 1947-1960. WHO, Geneva, 1961 78p.

○ —, 1961-1962. WHO, Geneva, 1963 40p.

ICAO

○ Catalogue of salable publications, 1946-1961. ICAO, Montreal, 1962 57p.

- Index of ICAO publications: Cumulated edition, 1952-. annual. ICAO, Montreal, 1953-.

FAO

- Catalogue of FAO publications, 1945-54, including available publication of the former International Institute of Agriculture. FAO, Rome, 1954 55p.

- Catalogue of FAO Publications, 1945-56; 1945-1958; 1945-1960; 1945-62. FAO, Rome, 1956-.

ILO

- Publications of the International Labour Office, 1944-1960. ILO, Geneva, 1960 60p.

—, 1944-1962. ILO, Geneva, 1962 69p.

- GATT
GATT bibliography. 1947-. annual. GATT, Geneva, 1954-.

注 15 国連総会は、1959年11月3日、フォード財団 (Ford Foundation) から、国連図書館として用いる新しい建物の建築と装備の費用として、予てより提供の申入れがあった620万ドルを受領した。このた

め、国連本部敷地の南西隅のニューヨーク市住宅局の建てた6階建ての建物にあった国連図書館はとり壊され、1960年11月21日から新しい建物の建築が始められた。1961年11月16日、総会は、故ハマーショルド事務総長の国連に対する貢献を称賛し、新図書館をダグ・ハマーショルド図書館と命名することを決めた。1962年始め、新しい建物の建築は完了し、図書館業務を始めた。

注 16 詳しくは、United Nations, Dag Hammarskjöld Library: UNDIS; the United Nations documentation information system. New York, 1974 37p. (ST/LIB/33) を参照

注 17 Marulli, L. The Dag Hammarskjöld Library and United Nations documentation. Unesco Bulletin for Libraries. vol. 32 no. 1: Jan.-Feb. 1978 p. 8

注 18 詳しくは、Inter-Organization Board for Information Systems: Directory of United Nations information systems and services. Geneva, 1978 p. 36-37 を参照

(あいじま・ひろし 一般参考課副主査)

